

碧峯奨学生インタビュー | 金仁峰さん〈香港大学大学院経済学修士〉

香港大学大学院で経済学を学び、清華大学 MBA へ

在日同胞の寄付と韓国政府の支援により 1963 年に設立された韓国教育財団は、在日同胞学生の学びを支えるため、長年にわたり奨学金事業を行ってきた。2003 年には、グローバルな舞台で活躍を志す若者を支援するため、「碧峯奨学基金」を創設。今回は、その支援を受けて香港大学大学院で経済学修士を取得し、現在は外資系企業で勤務しながら、清華大学 MBA への留学を予定している金仁峰さんに話を聞いた。

Q：まず、これまでの歩みについて教えてください。

A：朝鮮学校を卒業した両親の影響もあり、初級から高級まで朝鮮学校に通いました。在日 4 世として生まれ、日本社会で生活しながら朝鮮学校に通う中で、中学生のときには朝鮮籍から韓国籍に変更し、北韓に渡航する機会もありました。自らのルーツや教育環境もあり、自然と東アジアの国際関係に関心を持つようになりました。

Q：香港で学びたいと思ったきっかけは何でしたか。

A：筑波大学在学中に、香港中文大学経済学部へ交換留学生として派遣されたことがきっかけです。ここでの体験が「東アジアで最も国際的で、教育研究レベルも高い香港で本格的に学びたい」という動機につながりました。筑波大学を 2020 年に卒業し、その年の 8 月に香港大学大学院へ留学することになりました。

Q：留学にあたって、資金面での不安はありましたか。

A：両親とも会社員で、実家に金銭的な余裕があったわけではありません。そのため、なんとか留学費用を工面しようと、碧峯奨学金に応募し、採用されました。

Q：採用が決まったときのお気持ちはいかがでしたか。

A：とてもうれしかったです。これで資金面を心配することなく勉強に集中できると安心しました。同時に、支援していただく以上、期待に応えられるよう留学を最後までやり遂げようと、身が引き締まる思いでした。

Q：香港での留学生活はいかがでしたか。

A：留学した時期は、世界中がコロナウイルス禍の真っただ中でした。香港に渡航すると、すぐに 2 週間隔離されました。隔離期間が終わった後は住まいを探しましたが、香港は世界でも有数の地価の高い地域です。節約のため、世界中を旅するバックパッカーが泊まるホステルを選びました。1 部屋に 2 段ベッドが 3 台置かれた大部屋で、留学期間を過ごしました。世界中から訪れるさまざまな人種・国籍の旅人が次々と入れ替わる環境で過ごした香港での 1 年間は、とても思い出深いものになりました。

Q：特に印象に残っている出来事がありますか。

A：留学生活の中では、現金を盗まれるという出来事もありました。部屋に置いていた荷物の中の財布から少しずつ現金が減っていることに気づき、紙幣の端に自分にしか分からない×印をつけておきました。その後、ルームメイトに荷物を見せてもらったところ、中から×印のついた紙幣が出てきたことがありました。大変なこともありましたが、そうした経験も含めて、香港での生活は忘れられないものになっています。

Q：大学院では、どのようなことを学びましたか。

A：大学院では、マクロ経済学、ミクロ経済学、開発経済学、国際経済学などの講義を受講したほか、米国の産軍複合体の研究を専攻しました。高度な経済の知識が身につくとともに、英語力も伸び、現在の仕事にも生かされています。

Q：帰国後は、どのようなお仕事をされていますか。

A：将来的には国際機関で働きたいという思いがありました。そのためには、研究だけでなく、財務、予算管理、経営管理などの実務経験を積む必要があると考え、帰国後は日本 IBM に勤務しました。現在は経営企画に携わっており、大学院で学んだ経済の知識をビジネスの現場で深めています。外資系企業のため、米国本社とのミーティングなども多く、留学で培った英語力も実務の中でさらに磨いています。

Q：9月からは、清華大学 MBA へ留学される予定とのことですが、その理由を教えてください。

A：実は、アメリカのジョージタウン大学の MBA にも合格していたのですが、昨今の急激な円安による学費負担の増大に加え、碧峰奨学金は一度受給しているため、再度応募する資格がなかったこともあり、米国への留学は断念しました。ただ、これを機に視点を変え、米国が主流とされる MBA において、中国への留学はむしろ、キャリアの独自性を築く「ブルーオーシャン（未開拓市場）」かもしれないと前向きに捉えました。また、清華大学は MIT と提携しており高い教育水準を誇るうえ、修了生の多くが AIIB（アジアインフラ投資銀行）などの国際舞台へ進んでいます。修了後のキャリアアップも見据えたうえで、清華大学 MBA への留学を決めました。

Q：現在学んでいる碧峰奨学生へ、メッセージはありますか。

A：円安で留学機会が得られにくくなっていますが、在日同胞は日本からの視点だけでなく、多角的に東アジアを見ることができる存在だと思います。恵まれた機会を生かし、国境を超えて活躍してほしいです。

Q：今後の目標について教えてください。

A：具体的なキャリアパスはまだ決めていません。しかし、最終的には、分断された祖国の問題解決の目的が立つよう、何らかの形で貢献したいと考えています。